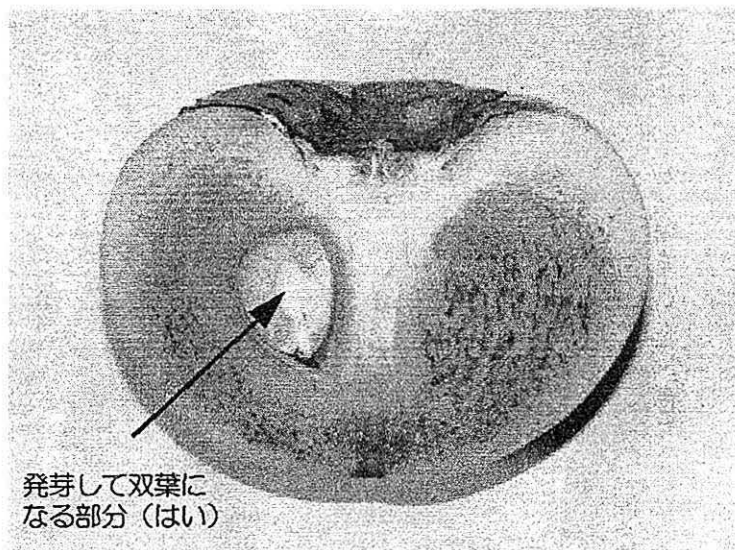


くだもののがく①

カキのたね



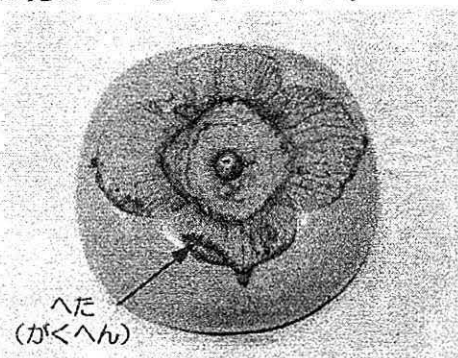
発芽して双葉になる部分（はい）

図1 カキの実をたてに切ったようす

実の中のたねは8個まで

カキの実を上から見ると（図2）、きれいな円ではなく、丸っこい四角形をしています。へた（がくへん）は4枚ついています。

カキの実を横に切ると、たねがいくつ入っているかよく見えます（図3）。写真のものは4個入っています。下側の4本のみぞは、たねが入るはずだった部屋です。4個のたねは実らなかったようです。つまり、カキの実には最大で



へた（がくへん）

図2 カキの実は、丸っこい四角形。へたには4枚のがくへんがついている

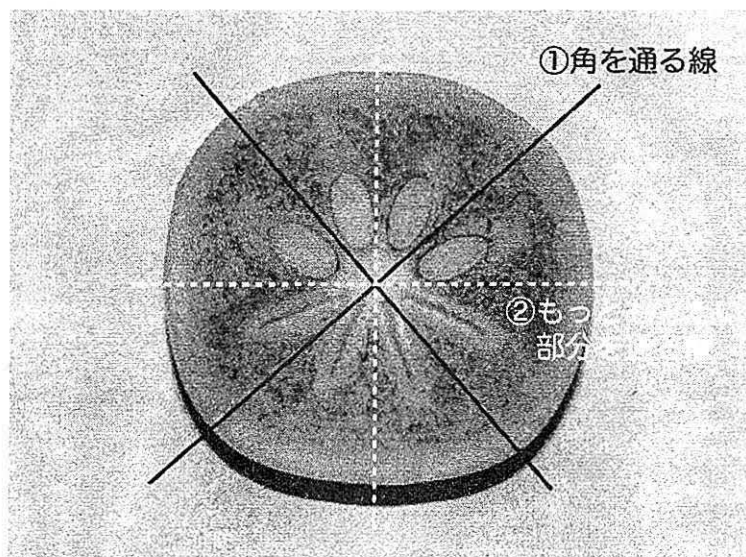


図3 カキのたねは、①角を通る線と②もっともせまい部分を通る線の間に入っている。写真の実にはたねが4つしか入っていない。

カキの実をたてに切った時、中のたねまで切れてしまうことがあります。たねはどちらを頭にして入っていて、中はどのようになっていたか、おぼえていますか？

たねの中には白いものが

図1を見ると、たねはとがった部分を下にして入っていて、中には白くて小さな葉っぱのようなものが上向き入っています。この部分は「はい」といって、たねを土に植えると発芽してふたば双葉になる部分です。食べるときには見ているようでも、なかなかはっきりとは覚えていないものですね。

8個のたねが入ることが分かります。図3に、①実の角を通る線と、②実のもっとも平たい部分を通る線（点線）を書き入れてみると、たねが入る部屋はこれらの線にはさまれていることが分かります。これを知れば、包丁でカキの実をたてに切る時に、たねを切るか、たねをさけて切るかを、あらかじめ見ぬくことができますね。今度やってみてはいかがでしょうか。たまに、たねなしのカキもあるので、念のため。

2009年10月 太田道人